



秦荘中学校 学校通信

至誠

スローガン

「笑顔いっぱい、ともに学び、
ともに伸びる学校」

令和5年(2023年)

6月5日 第3号

発行者 久保田重幸

コロナ禍と「未来を拓く 愛荘教育」

今年は、例年よりも早い梅雨入りとなり、いよいよ夏の到来を感じる季節となりました。5月には、授業参観(9日)、春季総体(18~19日)、県吹奏楽祭(19日)がそれぞれ開催され、生徒の活躍がみられました。学校生活も、3年あまり続いたコロナ禍を乗り越え、平常にもどりつつあります。生徒の皆さんや保護者の皆さん、地域の皆さんのこれまでの学校に対するご理解、ご協力に改めて感謝申し上げます。



タブレット端末を活用した学級討議の様子

一方で、私は、私たちがコロナ禍を経験したことで、「新しい課題について、みんなで考え、解決していく力」の重要性が増したと考えています。それは、私たちにとって、この3年間で、コロナ禍という「新しい課題について、みんなで考え、解決していく」過程そのものであったからです。改めて振り返ってみると、私たちは少なくともこれまで約100年間、今回のような感染症の拡大を経験したことがありませんでした。たぶん、皆さんのおじいさんやおばあさんの世代でも、これだけ大規模な感染症拡大を経験された方は少ないのではないのでしょうか。これにより「コロナ禍を克服する」という課題は、今を生きる私たちにとって、経験のない「新しい課題」となりました。私たちは、その「新しい課題」を解決するために、周囲の方たちと話し合いを重ね、実際に取り組んできました。秦荘中においても、基本的な感染予防策を実行するだけでなく、体育大会や修学旅行、PTA行事等の内容を変更して行ったり、タブレットなどのICT機器を活用して授業を行ったりするなど、生徒の皆さん、保護者の皆さんにご協力を頂きながら、解決に向けて、努力を積み重ねてきました。私たちは、その中で、これまで得た知識や経験を参考にしながらも、新しい「知恵」を生みだし、「新しい課題」の解決のために努力してきたわけです。その意味で、「私たちは、コロナ禍を経験しそれぞれに「新しい課題をみんなで考えて、解決していく力」をアップさせることができた」と言えるのかもしれませんが。さらに、私たちは、コロナ禍を通して、「これからの未来社会においても「新しい課題について、みんなで考え、解決していく力」が重要である」ことを改めて学んだとも考えられます。

実は、このような「新しい課題について、みんなで考え、解決していく力」については、愛荘町の「人が輝き 人が育つ 未来を拓く 愛荘教育」や、文部科学省の「生きる力」、滋賀県の「学ぶ力」に通じるもので、これまでより秦荘中の授業づくりでも大切にされてきたテーマでした。秦荘中では、今年度も引き続き「学習課題について、友だちと一緒に考え、解決について考える」ための指導のあり方について考えていきます。生徒の皆さんの積極的な学習参加を期待しています。